

授業科目 基礎社会学特論 (地域社会学特論・家族社会学特論)		科目概要・形式 4 単位 60 時間	配当年次 1 年 前期・後期
科目責任者	廣森直子		
担 当 者	平川毅彦、廣森直子		
1. 科目のねらい・目標 (地域社会学特論) 「地域社会」および「コミュニティ」という考え方の形成プロセス・議論をたどり、これらの社会学的意味を明らかにしたうえで、（１）望ましい地域社会としての「地域コミュニティ」、（２）生活上の課題を抱えた個人を支える「福祉コミュニティ」、という二本の柱から地域社会の意義と課題について、動画事例等をもとに検討する。 (家族社会学特論) 家族は人々にとって最も身近で基礎的な集団として、私たちの生き方を強く規制してきた。しかし、その家族は今、大きく揺れ動きその存在自体が問われるようになってきている。本講義では、変動しつつある家族の現状を理解するとともに、そのような変化をもたらしている要因についてジェンダー視点から考察するとともにこれからの家族のあり方について展望する。			
2. 授業計画・内容 (地域社会学特論) 1. はじめに 2. 地域社会とコミュニティ 3. 戦後町内会を巡る議論と都市コミュニティ論 4. 社会福祉から見た地域社会①：生活問題発生の場合 5. 社会福祉から見た地域社会 2：生活の主体的側面と地域社会 6. 「福祉コミュニティ」の考え方 7. 事例検討①：地域の茶の間・うちの実家（新潟市） 8. 事例検討②：生活圏拡張運動と「福祉のまちづくり」（仙台市） 9. 事例検討③：重度身体障害者の生活史と地域社会 1（春日井市・名古屋市） 10. 事例検討④：重度身体障害者の生活史と地域社会 2（岡崎市） 11. 課題作成 12. 課題報告とまとめ (家族社会学特論) 【とりあげる主なテーマ】 1. 家族とは何か：家族の定義、家族の用語、家族の分類 2. 家族の機能と役割：家族が個人と社会に対して果たす機能と役割 3. 家族の変動：家族形態と家族機能の変化 4. 経済システムの変動と家族 5. DV、虐待と家族 6. これからの家族：個人化と社会的包摂			
3. 教科書、参考書 (地域社会学特論) 教科書 平川毅彦『社会関係の主体的側面と福祉コミュニティ』 ブイツーソリューション 参考書 必要に応じて授業中に掲示する。 (家族社会学特論) 教科書は、とくに指定しない。参考書については、講義の中で適宜紹介する。			
4. 成績評価方法			

(地域社会学特論)

毎回の講義時におけるディスカッション内容及びまとめとして作成された課題とそのプレゼンテーション内容をもとに総合的に評価する。

(家族社会学特論)

出席状況とレポートなどにより総合的に評価する。

5. 受講要件

特になし。

6. 社会人学生に対する配慮

集中講義による開講を予定しています。

7. その他

(地域社会学特論)

受講前に、「このシラバス」に必ず目を通しておくこと。そのうえで、指定した「教科書」は授業開始時までに各自書店ないしアマゾンに注文・購入し、受講時に持参してほしい。講義の大半はテキストに記された内容を中心にすすめ、テキストの読み合わせも行う。テキストが手元に用意されていないことは「受講意思が無い」と見なされる場合もあるので充分注意すること。